

## 卒業を迎えて

准看護学科第 62 期生 高橋 千恵

2年前、准看護学校への入学が決まり、期待と不安を胸に入学前オリエンテーションに参加しました。先生方の説明の後、次々と渡される教科書や副読本の多さに圧倒され、更に緊張感が高まってきました。その中、先輩方の堂々としながらも穏やかな姿に、私も一年後、新入生の見本になれるよう頑張ろうと思いました。

入学を迎え、緊張感が漂う雰囲気の中で、年齢差も大きくクラスに馴染めるのか不安になりました。クラスメイトには、子育てをしながら学ぶ人も多く、勉強方法を教え合える環境もあり、安心したことが昨日のように思い出されます。入学後は、日々の課題に加え終講試験が続き、不安で心が押しつぶされそうになりました。しかし、講師の先生の話はとても新鮮で、私は難しい専門用語を必死で覚えようと集中して授業を受け、毎日復習しました。少しずつ理解できることが増えてくると、自信に繋がりました。そして座学で学んだことは、全て実習で受け持たせていただく患者さんに繋がっていることを実感しました。

戴帽式では先輩方から受け継いだキャンドルの炎と真白いナースキャップを戴き改めて、看護への道が揺るぎないものとなりました。それと同時にこのキャップに恥じないようにと身の引き締まる想いでした。

2年生になり各論実習では、個別性を考えた看護の難しさに直面しました。患者さんをよく観察することで、必要としていることが明確になり、本当にその患者さんに合った看護援助が実践できたとき、患者さんから「ありがとう」と言ってもらえました。このとき、看護の楽しさを肌で感じると同時に、更なる知識と技術を身につけなければと感じました。厳しいながらも常に見守って下さる先生方や、指導者さんの助言を受け「看護に正解はないよ」という言葉が、私の背中を押してくれました。正解がないからこそ私の看護観が広がり、広い視野と自信を持つことができました。

クラスメイトは辛い実習を乗り越えてきた仲間であり、互いに高めあえるライバルでした。みんなで励ましあい頑張ってきた日々は、絶対に忘れられない私の財産となりました。

2年間は家庭との両立で大変でしたが、家族や仲間を支えられ卒業を迎えることができました。今後は学校で学んだことを糧に、准看護師として患者さんの思いに寄り添い、笑顔忘れず一生懸命頑張っていきます。

